

## 3. 調査レポート

## 下関市，韓国・釜山広域市調査

井出弘毅\*

3. 調査レポート

下関と釜山を結ぶ国際フェリーに乗船し、元免税店経営者と跨境行商人たちに同行して聴き取り調査及び実態調査を行なった。調査日程は以下の通りである。

11月10日 空路にて北九州空港に。空港からバス・鉄道にて福岡市内の在日コリアンの旧集住地域に移動・巡検。再び鉄道にて下関に移動。インフォーマントである免税店を経営していた女性(以下S氏)に明日のアポイントを取る。11月11日 S氏と国際ターミナルにて再会。聴き取り調査。夕方に共にフェリーに乗船。再びS氏から聴き取り調査。また在日コリアンのポッターT氏からも聴き取り調査。11月12日 早朝釜山港に入港，入国・通関。S氏と共にタクシーにて市場に移動・巡検。その後古書店街等を巡検。再び市場の店舗に戻り，S氏と商品と共に店舗の車にて仕入れに同行，国際ターミナルへ移動。出国してフェリーに乗船。夜釜山港を出港。再びS氏から聴き取り調査。11月13日 早朝下関港に入港，入国・通関。S氏を迎えにきた夫と再会・聴き取り調査。その後国際ターミナル周辺を巡検。空路羽田へ帰着。

調査初日は、以前にも確認したかつての在日コリアンの集住地域の1つであり、最後に残っていた地区を巡検した。ここはかつて文化町と呼ばれた在日コリアンの集住地域であったが、区画整理により解体され、住民の多くは近くにある集合住宅へと移住した。前回調査時(2013年3月)と比べると、わずかに残っていたキムチ屋2軒はまだあり、その周囲もほぼ前回と同様であった。しかし駅前に警察署，その近くに新宗教の建物が新設されており，かつての文化町のあった場所に追加する形で街が変化してきており，往時と比べてまったく違う街になってきているのを再確認した。

その後鉄道にて下関に移動し，リトル釜山と称される在日コリアン商店が数多く並ぶグリーンモール商店街を巡検した。夜S氏と連絡を取り，明日の待ち合わせ時間・場所について確認した。S氏は，以前の調査時に別のインフォーマントから紹介された免税店主の妻である。

2日目，下関港国際ターミナル(写真1)にてS氏と再会し，共にプクワン(釜関)フェリーのソンヒ(星希)(写真2)に乗った。報告者はこれまで関釜フェリーの日本籍船である「はまゆう」に乗船した経験はあったが，韓国籍船であるソンヒに乗るのは初めてであった。ソンヒは初の韓国製のフェリーであり，はまゆうと



写真1 下関港国際ターミナル  
右側に韓国船ソンヒ(星希)号の上部のみ見える。

\* 東洋大学アジア文化研究所客員研究員；Asian Cultures Research Institute, Toyo University, 5-28-20, Hakusan, Bunkyo, Tokyo, 112-8606 / kowkide@br4.fiberbit.net

ほぼ同規模であるが、乗客数は100名多い。

S氏には以前の調査の際に在日コリアンのポッターを紹介して頂くことをお願いしており、ちょうどそのT氏と一緒に船に乗る予定があるとのことで、今回便乗させて頂いた。当該のポッターT氏はほぼ毎日この船で日韓間を行き来しており、いわばフェリーに住んでいる。しかし時折釜山のホテルに宿泊することもある。

船には日本での旅行を終え帰国する韓国人旅行者の団体客がかなり多かった。高齢の女性がほとんどであったが、夫婦も何組も見られた。

S氏からは免税店の経営者としての来し方や経営者の視点から見たポッターの実態についてなど、これまで知らなかった事柄についてまで詳細に話を窺うことができた。S氏は韓国本国生まれであるが、日韓ミックスの夫と結婚し、下関にて20年ほど免税店を経営していた。ポッターたちが立ち寄る拠点である免税店を経営していたことからS氏は、下関の国際ターミナルでも、釜山の市場や釜山の国際ターミナルでも顔なじみが多い。それは出入りしていたポッターたちだけではなく、付き合いのあった商店の人たちもである。S氏は時折ポッターたちと一緒にフェリーで釜山に行き、漢方薬や野菜、釜山オデン（日本で言うおでんのタネ。日本のものよりも甘くない）、夫への土産の酒やたばこなどを買い、また船で帰る。たまの気晴らしになるのと、ポッターの友人たちと船旅と釜山を楽しむということである。特に韓国人ポッターのC氏とは親しく、S氏は彼女を「姉さん」と日本語で呼んで慕っている。

またS氏の紹介でT氏に聴き取り調査を実施した。このT氏の実態については、以前宮下良子客員研究員から聞いていた。またT氏はS氏の店にも出入りしていたため、知り合いであることを事前の調査で確認済みであった。T氏からはポッター歴が55年になることや、その略歴を伺うことができた。T氏は最近のポッターのほとんどを占める韓国本人のポッターではなく、数少ない在日コリアンのポッターである。以前の調査において、下関在住で日韓を頻繁に行き来している在日コリアン男性から聴いたところでは、在日のポッターは日本船、韓国人のポッターは韓国船を利用するとのことであったが、それからするとこのT氏は例外である。ただ1人在日のポッターとして、韓国人ポッターたちと韓国船で行き来をしながら生活をしている。T氏は80歳代半ばとかなりの高齢である。ポッターを始めた頃は自分が一番若かったが、今は自分が一番年寄りだと言って笑う。自宅は東京にあるが、子どもたちとの折り合いが悪く、ほとんど帰ることはない。以前パスポートが切れた際に一度東京に戻ったことがあるが、最近釜山でもパスポートの更新ができるようになってからは一度も戻っていない。東京に住む息子からS氏には、T氏に商売をやめさせて東京に戻らせるよう懇願されているが、本人にはその意思が全くない。そのためS氏はT氏にそれを無理強いることもできず現状のままである。ただ高齢の故に何かあったら大変だとS氏は常に心配している。以前にも高齢のポッターが急死した際、レンタカーを借りて斎場まで遺体を運んだり、役所の手続きをしたりと、苦勞した経験がある。

ポッターはまず下関で商品を持って船に乗り夕方出航する。翌朝釜山に到着後、商品を卸の店に届け、しばらく休んだり遊んだりする。午後になると商品をまとめてターミナルへと移動し、夜釜山を出港し翌朝下関に到着する。基本的にこの繰り返しである。船には浴場、洗濯室、食堂、コンビニエンスストアなど、通常生活する上で必要な設備がそろっているため、こうした常に移動し続ける生活が可能となっている。ポッターはフェリーに頻繁に乗船するため、ポッター専用の回数券



写真2 下関港に停泊するソンヒ号

写真1の反対側から撮影。右側は海峡ゆめタワー。

がある。13万ウォンで11回分乗船できる。もっとも安価な2等室片道で9000円であるから、約1200円というのは破格に安いと言えよう。これを使うポッタリは、船室と場所を固定できる。ソンヒには一般乗客用の2等室がいくつかあるが、そのエリアとはラウンジを挟んで反対側のエリアにポッタリたちが住んでいる船室がある。中高年とは言い女性であるポッタリたちの部屋を見ることはできなかったが、構造的には一般乗客用と同じであり、1部屋に約10人用の寝るスペースとロッカーに、敷きマット・枕・シーツ・毛布のセットがある。帰りも同じ船に乗るため、ポッタリはその場所を固定できるということで、釜山上陸後は持ち運ぶ必要のないS氏と報告者の荷物を先のC氏が自分のスペースで預かってくれた。これによって非常に身軽に釜山を歩くことができた。ちなみに先の特別な回数券を持たなくなると、この特権は剥奪され、自分のスペースを持つことはできなくなるとのことである。

3日目の早朝フェリーは釜山に着き、ポッタリは大量の荷物を通関させる。ただし最近では手荷物として持ち込む荷物よりも、送料を払って送る荷物もかなり増えてきているとのことである。送り賃が格安に設定されているためではあるが、それでも手荷物として多くの物品がポッタリたちによって運ばれている。

今年8月末に釜山の国際旅客ターミナルが移転・新設となり、S氏も報告者も初めて新しいターミナルを見た。旧ターミナルと比べて規模は5倍増していたが、旅客を歩かせる距離もかなり長くなっており、老齢のポッタリたちには過酷であろうと思われた。またターミナルの場所も、前の市場に近い場所から1.5kmも遠くなっており、これもまたポッタリたちの負担を増している。そのためT氏たちポッタリは大量の荷物と一緒に、釜山の市場にある店の車で移動する。人数の関係で、報告者はS氏と共にタクシーで移動した。

店に着いた荷物は細かく仕分けられ、それぞれの店舗へと運ばれていく。ポッタリたちはそれを手渡した後休憩に入る。ある者は買い物に行ったり、店で休んでいたりと、それぞれが自由に時間を過ごす。その後S氏らとはいったん別れ、釜山の古書店街（写真3）や、プピョン（富平）市場（写真4）、クッチェ（国際）市場、チャガルチ市場など（写真5）を巡検した。菓子店では日本の菓子が所狭しと置かれ、ここが韓国であることを忘れさせるほどである。

午後になると、再び店が慌ただしくなる。下関の店から依頼された商品が集められ、次々とパッケージされていく。それらを店の車で何回かに分けてターミナルへと運ぶが、これにS氏と共に便乗させて頂いた。途中海藻の専門店（写真6）にて注文のあった商品をピックアップしてターミナ



写真3 釜山の古書店街



写真4 釜山のプピョン（富平）市場  
この市場は釜山市民向け。隣接するクッチェ（国際）市場は観光客向けの市場である。



写真5 釜山の市場へと続く道の真ん中で開業する飲食店。



写真6 海苔と昆布の仕入れ  
このように塊で売っている。



写真7 釜山港国際旅客ターミナルの内部  
2015年8月に移転・新設された。



写真8 釜山港国際旅客ターミナル  
商品（大きな段ボール）が見える。

ル（写真7）へと向かった。ターミナルに着くと、大量の荷物を車から下ろし、それぞれのポッタリの運ぶ分に分けられる。ポッタリによって、運ぶ商品のジャンルがほぼ決まっているとのことである（写真8、9）。今回の調査で新たに明らかになったのは、個人のポッタリが自分で仕入れをするという先行研究の記述やそれを受けてこれまで報告者が論文で指摘してきた点とは違って、ポッタリのグループが下関と釜山のそれぞれに拠点とする店舗があり、仕入れ等は主として店舗側にて行われているということである。これは個人とグループの仕入れの形態の違いによるものか、あるいは時代による変化なのかも知れない。これについては、今後の調査でより明らかにできるものと考え。船内では前日に引き続きS氏から2年前に約20年続けた



写真9（左）フェリー内の廊下  
所狭しと商品の荷物が置かれている。

免税店をやめた経緯，など様々な話を聴かせて頂いた。

4日目の早朝フェリーは下関に着き，ポッターたちは再び大量の荷物を通関させる。S氏は先述した通り釜山にて多くの物品を購入しており，検査に少し時間がかかった。ターミナル1Fの駐車場近くのスペースには，釜山からの荷物がどんと置かれていく。荷物の周りは時に無人となり，見張っている人もいない。それを店の車が次々と運び去っていく。ダンボールにマジックで書かれたハンゲル文字はポッターの姓などであり，それと注文表を見て店側は品物を特定して運んでいく。間違えることはまずないとS氏は言う。

また出張者の過去の論文に孫引用した，関釜フェリーの2等航海士による手記には「中略」の部分があった。その部分を確認するためターミナル内にあるフェリー会社にて手記が掲載された社報の閲覧を願い出た。しかしそれは公開する性質のものではないとの理由で，断られてしまった。あくまでも学術的な目的であることも説明したが，かなわなかった。これについては別の方法を考えるしかない。下関から鉄道とバスにて北九州空港へと向かい，空路にて帰着した。

今回の調査では，ポッターの動向について，先行研究や報告者の体験に基づく知見をはるかに超えた詳細なデータを得ることができた。次回調査では，S氏の夫が手書きで残している免税店の記録を見せて頂く予定である。これによりポッターが扱う商品のトレンド，価格などを時系列で把握することができるだろう。